

「誰がために走るのか」

5月末に高校総体の壮行式を行いました。今日は2回目の高校総体壮行式になります。今朝は体育館の空気が冷たく感じられ、いよいよ駅伝の季節到来という感じがします。

先ほどキャプテンの決意表明の中でも応援してくれる人たちへの感謝の言葉がありました。何の競技であれ、スポーツ選手が試合を終えたインタビューでまず口にするのは「感謝」です。「監督、コーチに感謝したい。」「スタッフに感謝したい。」「チームメイトに感謝したい。」「家族に感謝したい。」「応援してくれた方々に感謝したい。」まず、支えてくれた全ての方々への感謝の言葉を述べる選手が多いように思います。一流のアスリートが共通して持っているもの。それは「素直さ」と「謙虚さ」です。自分一人の力では強くなれないことを知っているからだろうと思います。オリンピックでメダルをとったあるアスリートがこういうことを言っていました。「自分のためだけに競技をやっていたら、私はとっくにつぶれていて、今ここにはいないと思います。甘えも出ただろうし、きつい練習から逃げ出していたらと思う。でも、私は監督や家族、そして応援してくれる人たちを喜ばせようと思えたからこそここまで頑張れました。」

みなさんは今日まで尾崎先生の厳しい練習によく耐えてきました。きついこともあったでしょうがよくがんばりました。おそらく尾崎先生はみんなのことをあまり褒めないのではないかと思います。それは、まだまだ記録が伸びる可能性があるのに、簡単に褒めてしまうとそこで選手が満足してしまい、伸びなくなってしまうと考えていらっしゃるからだと思います。しかし、ここだけの話ですが、尾崎先生は陰ではみんなのことをベタ褒めされています。試合が終わる度に、私にメールをくれ、選手たちは本当によくがんばりました、と褒め称えていらっしゃいます。なかなか褒めてくれない尾崎先生の厳しい練習に耐えてこられたのは、自分の記録を伸ばしたいという自分のためでもあったでしょう。しかし、それだけでなく、どこかに家族など支え応援してくれている人を喜ばせたいという気持ちがあるからこそここまで走ってこられたのだらうと思います。走るということは孤独です。自分との闘いだと思いますが、みなさんの懸命の走りで喜んでくれたり、元気をもらったり、胸を熱くする人がいることを胸に走ってください。

小浜町、南串山町、加津佐町、私たちの地元、ホームグラウンドを走ります。沿道では、みんなが名前も顔も知らない方々がみんなの背中を押してくれるはずです。

「口加がんばれ！」と声がかかったときは、「頑張れ！」ではなく「顔晴れ！」という字を思い浮かべてください。その方が気持ちが入り、力も湧いてくるものです。

自分のために顔晴れ！ 中継所でタスキを待つ仲間のために顔晴れ！ 支えてくれた家族のために顔晴れ！ 第2グラウンドで共に汗を流したチームメイトのために顔晴れ！ 今日ここで応援してくれている仲間のため、そして先生たちのために顔晴れ！ 母校口加高校のために顔晴れ！ そして自分の家族と過ごす時間より、みんなと沢山の時間を共にしてきた顧問の尾崎先生のために顔晴れ！ 当日、私も沿道のどこかでみんなを応援します。タイムや順位ではなく、ただひたむきに走る姿に声援を送りたいと思います。